

## 花育てによる安全なまちづくり

### 見守りフラワーポット大作戦

“自分たちのまちは自分たちで守る”

これは、安全・安心なまちづくりを進めようとする地域住民の決意です。

安城市篠目町では、まちの安全性を高めるため、“花育てによる安全なまちづくり”という全国にも例のない試験的な取り組みを行っています。



#### 活動のきっかけ

この活動は、防犯まちづくりの専門家 独立行政法人建築研究所の樋野公宏博士が提唱しているものです。

子どもの安全確保は、地域社会の共通の課題です。すべての方が共感を持つものですが、子どもの安全確保を意識した特別な活動（自転車の前かごにパトロール中のプレートを付けたり、パトロールジャケットを着て歩くこと）を、実際に行うことには抵抗感を持つ方が多いのが現状です。

このため、無理なく誰でもできる別の目的の活動に、防犯の視点を加えるというスタイルを採用することとしました。

花を育てることは、誰もが大好きです。花への水やり、手入れの時間をちょっとだけずらし、子どもの登下校の時間帯にすることなら比較的簡単にできます。

子どもたちに注がれる見守りの目が、自然な形で増え、無理なく長続きするものとなることを目指し、この活動を始めました。



「花を優しく育てながら、地域の子どもたちにも優しい見守りの目を注ぎましょう」と話す樋野博士

#### 活動の概要

平成21年11月28日、安城市立梨の里小学校において、自主防犯団体（篠目町安

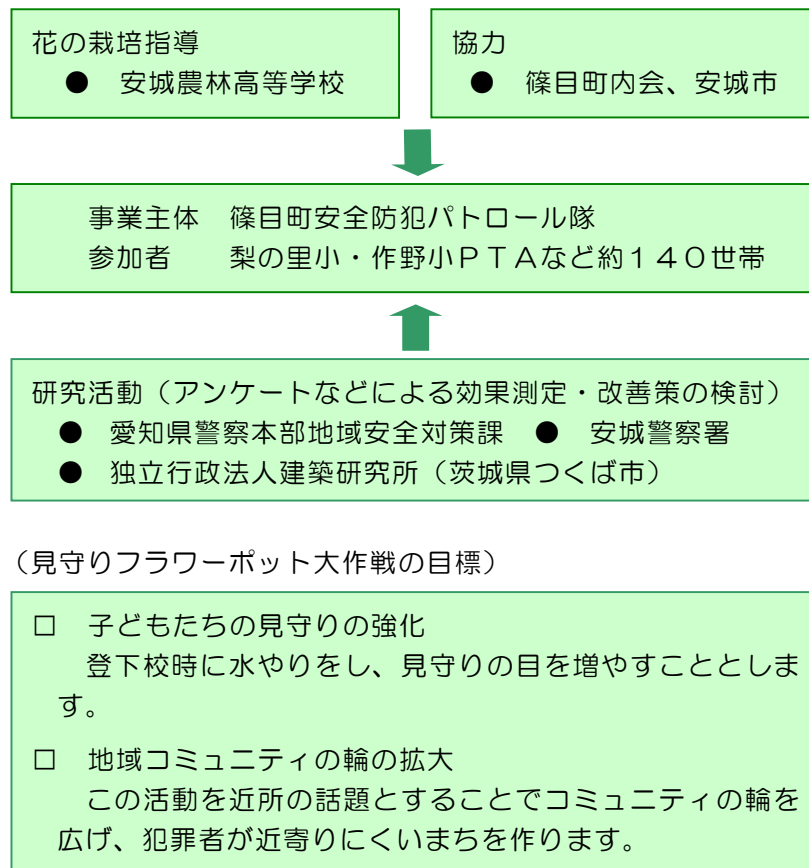
全防犯パトロール隊)が中心となり、PTAの方たちと一緒に、パンジーを植えたフラワーポット140個を作成しました。

パンジーの苗は、県立安城農林高等学校の生徒が育てたもので、同校の先生、生徒たちも栽培方法の指導のために参加しました。

現在、花育てをしながら、子どもたちへの見守りの目、地域コミュニティの輪の拡大に努めています。



愛情を込めたフラワーポットの作成



## まちの人たちの声

見守りフラワーポット大作戦の参加者の方々からは、次のような意見が多く寄せられています。

- 毎日、花を見るのは楽しみ。また、小さいお子さんたちへのあいさつ、声かけも楽しみです。
- 花への水やりの際に外に出て近所の人とあいさつする機会が増えました。
- 花の育成方法などについて、ご近所の人と話をしました。
- 道行く人がフラワーポットの花を眺めていることがあります。

小さな出来事かもしれませんが、こうしたことでコミュニティの輪が広がれば、犯罪者の近寄りにくいまちとなります。

まちの安全性は、確実に向上していきます。

## 今後の展開

この活動は、まだ始まったばかりです。

この活動には、大きく広まるよう期待を込めて、「見守りフラワーポット大作戦」と名付けました。

物事に対する価値観は時代によって変化します。

しかし、人が草花を愛する気持ちは100年先でも変わることはありません。

花づくりと防犯が結び付き、子どもの安全、防犯活動の輪が大きく広まるよう期待しています。



管轄交番のおまわりさんも参加

## パンジーの花について

見守りフラワーポット大作戦を始めたのは、11月末です。

この季節を代表する花はパンジーです。

パンジーは、太陽の日差しが大好きで、冬の寒さにも強い花です。

パンジーのように、子どもたちが、強く、元気に育ってほしいと願っています。